# 市町村における発掘調査の概要
# 平成 30 年度（2018 年度）

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課

## 平成30年度　市町村が主体となる発掘調査一覧

| 番号 | 管　内 | 市町村名 | 遺　跡　名 | 調査理由 | 調査面積（㎡） | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石狩 | 札幌市 | H508遺跡 | 詳細分布 | 360 | |
| 2 | | | M555遺跡 | その他開発 | 2,770 | |
| 3 | | | K557遺跡 | 道路 | 2,130 | |
| 4 | | 江別市 | 高砂遺跡 | 住宅 | 307 | |
| 5 | | 千歳市 | オサツ13遺跡 | その他建物 | 284 | |
| 6 | | | 協和3遺跡 | 農業関連 | 2,329 | |
| 7 | | 恵庭市 | ユカンボシE2遺跡 | 住宅 | 158 | |
| 8 | | | ユカンボシE11遺跡 | 詳細分布 | 9 | |
| 9 | 渡島 | 函館市 | 垣ノ島遺跡 | 史跡整備 | 45 | 法第125条 |
| 10 | | | 日吉町A遺跡 | 道路 | 655 | |
| 11 | | | 大船H遺跡 | 道路 | 3,950 | |
| 12 | | | 臼尻A遺跡 | 道路 | 1,485 | |
| 13 | | 森町 | 鷲ノ木2台場跡 | 詳細分布 | 35 | |
| 14 | 檜山 | 上ノ国町 | 上之国洲崎館跡 | 史跡整備 | 245 | 法第125条 |
| 15 | 後志 | 余市町 | 八幡山遺跡 | 道路 | 618 | |
| 16 | 宗谷 | 枝幸町 | 目梨泊遺跡 | 学術研究 | 18 | |
| 17 | | 利尻町 | 亦稚貝塚 | 学術研究 | 2 | |
| 18 | | 利尻富士町 | 沼浦海水浴場遺跡 | 学術研究 | 13 | |
| 19 | オホーツク | 湧別町 | シブノツナイ竪穴住居群 | 詳細分布 | 12 | |
| 20 | 胆振 | 苫小牧市 | 覚生1遺跡 | ダム | 500 | |
| 21 | | | 勇振1遺跡 | 道路 | 1,000 | |
| 22 | | 伊達市 | 北黄金4遺跡・南黄金2遺跡 | 詳細分布 | 66 | |
| 23 | | | カムイタプコプ下遺跡 | 学術研究 | 211 | |
| 24 | | 厚真町 | 豊沢6遺跡 | 宅地造成 | 90 | |
| 25 | | | 幌内8遺跡 | 農業関連 | 1,023 | |
| 26 | | むかわ町 | 東雲1遺跡 | 詳細分布 | 6 | |
| 27 | 日高 | 様似町 | 冬島遺跡 | 詳細分布 | 16 | |
| 28 | 根室 | 中標津町 | 標津川9遺跡 | 詳細分布 | 21 | |
| 29 | | 標津町 | ポー川河岸3遺跡 | 詳細分布 | 8 | |
| 30 | | 別海町 | 旧奥行臼駅逓所 | 史跡整備 | 44 | 法第125条 |

調査面積合計　18,410 ㎡

## 平成30年度 （公財）北海道埋蔵文化財センターによる発掘調査一覧

| 番号 | 管　内 | 市町村名 | 遺　跡　名 | 調査理由 | 調査面積（㎡） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 渡島 | 木古内町 | 幸連遺跡 | 道路 | 877 |
| 2 | | | 幸連5遺跡 | 道路 | 2,687 |
| 3 | 空知 | 長沼町 | 12区C遺跡 | 道路 | 1,400 |
| 4 | オホーツク | 斜里町 | カモイベツ遺跡 | 道路 | 1,695 |
| 5 | 胆振 | 苫小牧市 | 高丘8遺跡 | 道路 | 6,417 |
| 6 | | 白老町 | ポロト3遺跡 | 公園造成 | 590 |
| 7 | | 厚真町 | 鯉沼2遺跡 | 農業関連 | 1,971 |
| 8 | 日高 | 浦河町 | 栄丘遺跡 | 道路 | 800 |
| 9 | | | 向別遺跡 | 道路 | 2,400 |
| 10 | | | 常盤町遺跡 | 道路 | 18,121 |
| 11 | | | 昌平町遺跡 | 道路 | 3,179 |
| 12 | 根室 | 根室市 | トーサムポロ湖周辺竪穴群 | 道路 | 395 |
| 13 | | | 別当賀一番沢川遺跡 | 道路 | 195 |

調査面積合計　40,727 ㎡

※ 詳しくは、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターへお問い合わせください(http://www.domaibun.or.jp/)

## 平成30年度　大学等による発掘調査一覧

| 番号 | 管　内 | 市町村名 | 遺　跡　名 | 調査理由 | 調査面積（㎡） | 調査者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 石狩 | 札幌市 | K39遺跡 | その他建物ほか | 2,256 | 北海道大学埋蔵文化財調査センター |
| 2 | | | K39遺跡 | その他建物ほか | 64 | 北海道大学埋蔵文化財調査センター |
| 3 | | | K39遺跡 | 学術研究 | 117 | 北海道大学埋蔵文化財調査センター |
| 4 | 渡島 | 松前町 | 福山城下町遺跡 | 学術研究 | 36 | 関根達人 |
| 5 | 後志 | ニセコ町 | 西富遺跡 | 学術研究 | 15 | 西富遺跡調査グループ（高倉純） |
| 6 | | | 西富遺跡 | 学術研究 | 16 | 西富遺跡調査グループ（高倉純） |
| 7 | | 倶知安町 | 峠下遺跡 | 学術研究 | 14 | 札幌国際大学（坂梨夏代） |
| 8 | 宗谷 | 礼文町 | 浜中2遺跡 | 学術研究 | 31 | 北海道大学アイヌ・先住民研究センター（加藤博文） |
| 9 | オホーツク | 北見市 | 吉井沢遺跡 | 学術研究 | 12 | 夏木大吾 |
| 10 | | | 大島1(TK-10)遺跡 | 学術研究 | 152 | 東京大学大学院人文社会系研究科（熊木俊朗） |
| 11 | | | 大島2(TK-11)遺跡 | 学術研究 | 311 | 東京大学大学院人文社会系研究科（熊木俊朗） |
| 12 | | 置戸町 | 共栄3遺跡 | 学術研究 | 5 | 中沢祐一 |
| 13 | | | 秋田10遺跡 | 学術研究 | 7 | 首都大学東京人文社会学部（出穂雅実） |
| 14 | | | 置戸山2遺跡 | 学術研究 | 11 | 大塚宜明 |
| 15 | | 遠軽町 | タチカルシュナイ遺跡 | 学術研究 | 30 | 夏木大吾 |
| 16 | 胆振 | 豊浦町 | 礼文華遺跡 | 学術研究 | 176 | 小杉康 |
| 17 | 十勝 | 大樹町 | 浜大樹2遺跡 | 学術研究 | 110 | 深澤百合子 |

調査面積合計　3,363 ㎡

※ 詳しくは、各大学等 へお問合せください。 遺跡の位置などは、「北の遺跡案内」をご覧ください。
「北の遺跡案内」(http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm)

# 市町村による発掘調査の概要（平成30年度）

ご覧になりたい遺跡をクリックするとページに移動します。

**石狩管内**

札幌市　Ｈ５０８遺跡
Ｍ５５５遺跡
Ｋ５５７遺跡
江別市　高砂遺跡
恵庭市　ユカンボシＥ２遺跡
ユカンボシＥ１１遺跡

**渡島管内**

函館市　史跡　垣ノ島遺跡
日吉町Ａ遺跡
大船Ｈ遺跡
臼尻Ａ遺跡
森町　鷲ノ木２台場跡

**桧山管内**

上ノ国町　史跡　上ノ国洲崎館跡

**後志管内**

余市町　八幡山遺跡

**宗谷管内**

枝幸町　目梨泊遺跡
利尻町　亦稚貝塚
利尻富士町　沼浦海水浴場遺跡

**オホーツク管内**

湧別町　シブノツナイ竪穴住居群

**胆振管内**

苫小牧市　覚生１遺跡
勇振１遺跡
静川44･45･46･47遺跡
伊達市　カムイタプコプ下遺跡
厚真町　豊沢６遺跡
幌内８遺跡
むかわ町　東雲１遺跡

**日高管内**

様似町　冬島遺跡

**根室管内**

中標津町　標津川９遺跡
標津町　ポー川河岸３遺跡
別海町　史跡　旧奥行臼駅逓所

このホームページについてのお問合せや、
北海道の遺跡をもっと知りたい方は･･･

北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課
住所：札幌市中央区北３条西７丁目
電話：011-231-4111　内線35-626
北の遺跡案内
http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kitanoisekiannai.htm

一覧へ戻る

さっぽろし　エイチごひゃくはちいせき

# 札幌市　H508遺跡　（A-01-508）

発 掘 主 体 ：　札幌市教育委員会（札幌市埋蔵文化財センター）
調 査 理 由 ：　詳細分布
調　査　地 ：　札幌市東区丘珠町571番地３
調 査 期 間 ：　平成30年８月27日から10月19日まで
調 査 面 積 ：　360㎡

## 調査の概要

調査状況

Ｈ508遺跡は、札幌市北部に広がる沖積平野に立地する縄文晩期～続縄文初頭の遺跡で、札幌北部の低地にあるモエレ沼の南西側に位置しており、現地表面の標高は５m前後、縄文晩期～続縄文初頭の旧地表面の標高は３m前後です。

Ｈ508遺跡は、札幌市農業体験交流施設「サッポロさとらんど」の造成に先立ち、平成４・５年に実施した試掘調査で発見され、現在まで盛土保存されてきました。平成23年度から遺跡の整備を進め、平成30年５月に「丘珠縄文遺跡」としてオープンしました。

平成30年度の調査は、遺跡の詳細を把握するために、平成26年度の確認調査区を一部拡張する形で実施しました。調査の結果、遺構では剥片集中、遺物では土器や石器等が出土しました。

なお、発掘調査の成果については、平成30年度末に調査概報を刊行する予定です。

## この遺跡についてのお問合せは･･･

札幌市埋蔵文化財センターまで

住　　所：札幌市中央区南22条西13丁目
電　　話：011-512-5430
開館時間：8:45～17:15
閉 館 日：祝日・振替休日・年末年始（ただし、５月３～５日、11月３日は開館）

一覧へ戻る

さっぽろし　エムごひゃくごじゅうごいせき

# 札幌市　M555遺跡　（A-01-555）

発 掘 主 体 ：　札幌市教育委員会（札幌市埋蔵文化財センター）
調 査 理 由 ：　開発事業（その他開発）
調　査　地 ：　札幌市南区白川1814-41,1814-1099
調 査 期 間 ：　平成30年６月11日から８月10日まで
調 査 面 積 ：　2,770㎡

## 調査の概要

M555遺跡は、札幌市南西部の山岳地を流れる豊平川左岸の河岸段丘上に立地する遺跡で、札幌市営地下鉄南北線真駒内駅から西南西へ約7.2km付近に位置しています。事業地の南東側には、札幌市水道局の白川第３浄水場が整備されています。現在の遺跡付近の標高は約155mです。

遺物出土状況

今回の発掘調査では、縄文時代の遺物包含層が確認されました。遺構としては、土坑15基、炉跡１カ所、焼土粒集中４カ所、炭化物集中11カ所等が検出され、遺物としては、縄文土器や石鏃、石斧等の石器が出土しました。土器は一箇所にまとまって発見されることもありました。その他、黒曜石の剥片が集中する範囲が検出されたことから、石器製作を行っていた可能性があります。

なお、発掘調査の成果については、平成31年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。

## この遺跡についてのお問合せは･･･

札幌市埋蔵文化財センターまで

住　　所：札幌市中央区南22条西13丁目
電　　話：011-512-5430
開館時間：8:45～17:15
閉 館 日：祝日・振替休日・年末年始（ただし、５月３～５日、11月３日は開館）

一覧へ戻る

さっぽろし　ケーごひゃくごじゅうななないせき

# 札幌市　K557遺跡　（A-01-557）

発 掘 主 体 ：　札幌市教育委員会（札幌市埋蔵文化財センター）
調 査 理 由 ：　開発事業（道路）
調　査　地 ：　札幌市北区西茨戸1-555ほか
調 査 期 間 ：　平成30年８月20日から11月２日まで
調 査 面 積 ：　2,130㎡

## 調査の概要

K557遺跡は、札幌市営地下鉄南北線麻生駅から北へ約5.3kmの、石狩市との市境付近に位置しています。沖積平野の北端部に立地し、遺跡の北西約110mを発寒川が流れています。現在の海岸線から遺跡までは約6.5kmで、遺跡付近の現在の標高は約３m、遺物包含層の標高は約1.5mです。発寒川の北側には、縄文海進期の海岸砂丘とされる紅葉山砂丘が続いていましたが、近年の開発により失われています。

遺物出土状況

今回の発掘調査では、縄文時代の遺物包含層が確認されました。遺跡の中央を南北方向に蛇行する小規模な河川が検出され、その右岸に遺構・遺物が多く分布していました。遺構としては、竪穴住居跡１軒、黒曜石剥片集中１カ所、焼土粒集中１カ所、炭化物集中４カ所、遺物としては縄文時代中期・後期の土器や石鏃、つまみ付きナイフ、石斧、砥石などが発見されました。竪穴住居跡は、一部が河川に開析され失われていますが、竪穴長軸の残存長は8.0m、短軸は6.3mで、周囲には掘り上げ土が残っていました。床面では多数の土器、石器が出土したほか、黒曜石剥片集中が検出されたことから、竪穴住居の中で石器製作を行っていた可能性があります。

なお、発掘調査の成果については、平成33年度末に発掘調査報告書として刊行する予定です。

## この遺跡についてのお問合せは･･･

札幌市埋蔵文化財センターまで

住　　所：札幌市中央区南22条西13丁目
電　　話：011-512-5430
開館時間：8:45～17:15
閉 館 日：祝日・振替休日・年末年始（ただし、５月３～５日、11月３日は開館）

一覧へ戻る

えべつし　たかさごいせき

# 江別市　高砂遺跡　(A-02-012)

発掘主体：　江別市教育委員会
調査理由：　開発事業（住宅）
調　査　地：　江別市高砂町31-3
調査期間：　平成30年６月１日から７月14日まで
調査面積：　307㎡

## 調査の概要

高砂遺跡は、JR高砂駅の北西側に広がる遺跡です。かつてJR野幌駅付近に源を発し、石狩川へ注ぎ込んでいた旧モショッケ（虫除）川の右岸に位置します。

発掘調査は昭和39年から始まり、これまでに20回以上実施しています。これまでの調査で住居跡が220軒以上、墓や落し穴などの土壙が1500基以上を検出し、縄文時代早期～擦文時代の土器や石器を110万点以上発見しています。

今年度は、縄文時代中期の住居跡が多く発見されているエリアを調査しました。住居跡等６軒、土壙等34基、落し穴３基、などを検出ました。住居跡と落し穴は、発見された土器から縄文時代中期と考えられます。数基の土壙から土師器が見つかりました。地元の土器が一緒に発見されなかったので、時代ははっきりしませんが、周辺の地区で北大式土器の出土例があることから、続縄文時代後半の可能性があります。土師器が発見された土壙は、埋め戻した土が確認されることから、墓ではないかと考えられます。

遺物は、縄文時代中期の土器を中心に、縄文時代早期～擦文時代の土器、石鏃や石斧などの石器を発見しました。今回の調査で注目されるのは、変わった形の石器です（写真）。長さ４cmほどの小さな石器ですが、貫通孔が３箇所、表面・裏面・側面に穴が合わせて24箇所開けられています。そして角状の突起と足状の突起それぞれの片方が折られ、折った面を研磨している痕跡が見られます。形状が人の形ではないので断言はできませんが、千歳市梅川４遺跡出土の類似した石製品を参考にすると岩偶（石偶）かもしれません。時代は縄文時代中期と考えられます。

土師器の出土状況

異形石器（岩偶？）

## この遺跡についてのお問合せは･･･

江別市郷土資料館まで

住　　所：江別市緑町西１丁目38　　電　　話：011-385-6466
開館時間：9:30~17:00（最終入場16:30）　　閉 館 日：月曜日・祝日の翌日・年末年始

一覧へ戻る

えにわし　ゆかんぼしイーにいせき

# 恵庭市　ユカンボシE2遺跡　（A-04-003）

発掘主体：　恵庭市教育委員会
調査理由：　開発事業（住宅）
調査地：　恵庭市和光町５丁目498-55
調査期間：　平成30年５月25日から７月13日まで
調査面積：　158㎡

## 調査の概要

遺跡はＪＲ千歳線恵庭駅から南東約0.7kmの市街地に位置し、源流部から約1.6km下流のユカンボシ川右岸段丘上（標高28～29m）に立地します。今回の調査区は現在のユカンボシ川から約35mの位置にあります。ユカンボシ川は市内南部を流れる延長約6.6kmの小河川で、上中流は恵庭市、下流は千歳市を流れており、恵庭市内のユカンボシ川流域では15か所の遺跡が確認されています。ユカンボシＥ２遺跡は、これまでに平成17・21・23・25・26年度の５か年で６回の発掘調査が実施されており、平成30年度は７回目の発掘調査となります。

今回の発掘調査で検出された遺構はすべて縄文時代のもので、竪穴建物跡１軒、土坑15基、焼土８か所、落とし穴１基、柱・杭穴22個などが確認されました。このうち、焼土はその検出層位や出土遺物などから、縄文時代晩期前葉のものが大半であると考えられます。出土遺物は、約158㎡という比較的狭小な調査区にあって、合計約32,800点を数えます。その内訳は、縄文時代早期～晩期の土器が約21,900点、石鏃や石錐などの石器類が約300点、黒曜石などの剥片類が約10,200点、土製品・石製品が各１点、礫類が約360点出土しました。出土土器は縄文時代の各時期のものがみられますが、晩期前葉の土器が約20,400点と９割以上を占めます。このことから、今回の調査を実施した区域は縄文時代晩期の時期にたくさんの利用があったことがうかがえます。なお、旧石器・続縄文・擦文・アイヌ文化期の各時期に相当する遺構や遺物は確認されませんでした。

報告書は平成31年3月に刊行予定です。

調査状況

出土土器

## 恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は・・・

**恵庭市郷土資料館まで**

住所：恵庭市南島松157-2　　電話：0123-37-1288
ホームページ：http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/genre/0000000000000/1373345919868/index.html
開館時間：9:30~17:00
閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

一覧へ戻る

えにわし　ゆかんぼしイーじゅういちいせき

# 恵庭市　ユカンボシE11遺跡　（A-04-117）

発掘主体：　恵庭市教育委員会
調査理由：　詳細分布
調　査　地：　恵庭市和光町５丁目529-43
調査期間：　平成30年５月31日
調査面積：　９㎡

## 調査の概要

遺跡はＪＲ千歳線恵庭駅から南東約1.3㎞の市街地に位置し、源流部から約２㎞下流のユカンボシ川右岸段丘上（標高27～29ｍ）に立地します。今回の調査区は現在のユカンボシ川から約50ｍの位置にあります。今回の調査は、将来的に住宅建築が計画される区域（約260㎡）において、遺跡の内容を確認するために、幅１ｍ、長さ1.5ｍの試掘坑を６か所に設けて行いました。試掘調査の結果、縄文時代中期後半の土器１点、縄文時代後期初頭の土器の小片３点が出土しました。遺構は確認されませんでした。

調査地点跡

調査区

## 恵庭市の遺跡をもっと知りたい方は･･･

**恵庭市郷土資料館まで**

住所：恵庭市南島松157-2　　電話：0123-37-1288
ホームページ：http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/www/genre/0000000000000/1373345919868/index.html
開館時間：9:30~17:00
閉館日：月曜日・祝日の翌日・毎月最終金曜日・年末年始

はこだてし　しせき　かきのしまいせき

# 函館市　史跡　垣ノ島遺跡 （B-01-258）

一覧へ戻る

| | | | |
|---|---|---|---|
| 発掘主体： | 函館市教育委員会 | 調査理由： | 史跡整備 |
| 調査地： | 函館市臼尻町406-1、417-1～5、418、419-1･2、426-2、431～433、434-3～5、441-1･2 | 調査期間： | 平成30年７月２日から11月30日まで |
| | | 調査面積： | 45㎡ |

**遺跡の概要**

史跡垣ノ島遺跡は、函館市中心部から北東に25kmほど離れた太平洋に面した南茅部地域の、垣ノ島川左岸の標高約32～50ｍの海岸段丘上に位置しています。

これまでの発掘調査の結果、大規模な盛り土遺構をはじめ、縄文早期から後期にかけてのおよそ6,000年間という長期間にわたり営まれた拠点集落であったことがわかり、縄文時代の遺跡が多い南茅部地域において、中心的な遺跡として位置付けられ、平成23年２月７日に国の史跡に指定されました。その後、史跡整備に向けて主要な遺構である盛り土遺構の発掘調査を行い、その全体規模や形状を捉えることができ、これらの成果をまとめた総括報告書を平成28年度に刊行しました。平成29年度からはこれまでの調査成果をもとに遺構の保存を前提とした保存整備事業に着手しています。

**調査の概要**

今年度は盛り土遺構造成工事および園路等の実施設計に伴い、遺構保護を目的とした発掘調査を13箇所で行いました。調査区は１×１ｍを基本とし、必要に応じて拡張しながら進めました。

盛り土遺構の調査では、現地表面から表土･火山灰層に被覆された盛り土層までの深さを確認することで、確実に遺構を保護したうえで造成工事を実施することができました。また園路予定地の調査においては、各所の土層堆積状況をより詳しく確認することができ、これまでの調査成果と併せて、整備設計に反映すべき多くの情報が得られました。

出土した遺物のうち、土器は縄文前期後半から後期初頭にかけてのもので、円筒下層式、円筒上層式、榎林式、大安在Ｂ式、レンガ台式、天祐寺式等があります。石器は石鏃、石槍、スクレイパー、石斧、擦石、敲石、砥石等が出土しています。中でも青竜刀形石器が数多く出土しており、垣ノ島遺跡の盛り土遺構の特徴と言えます。

これまでに環境整備や盛り土遺構造成工事、整備実施設計などを行い、今後は園路や広場などの整備工事を実施し、一般公開に向け取り組んでいます。

調査状況

採集遺物（青竜刀形石器）

**この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は･･･**

**函館市教育委員会 生涯学習部文化財課世界遺産登録推進担当**
住所：函館市東雲町4-13　　電話：0138-21-3563
ホームページ：http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/

**市立函館博物館**
住所：函館市青柳町17-1　　電話：0138-23-5480
ホームページ：http://hakohaku.com/
開館時間：（４月～10月）9:00～17:00、（11月～３月）9:00～16:30
休館日：月曜日・毎月最終金曜日・祝日・年末年始など

**函館市縄文文化交流センター**
住所：函館市臼尻町551-1　　電話：0138-25-2030
ホームページ：http://www.hjcc.jp/
開館時間：（４月～10月）9:00～17:00、（11月～３月）9:00～16:30
閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など

はこだてし　ひよしちょうエーいせき

# 函館市　日吉町A遺跡 (B-01-015)

一覧へ戻る

| | | | |
|---|---|---|---|
| 発掘主体： | 函館市教育委員会 | 調査地： | 函館市日吉町４丁目58-3, 67-29, 127-4, 150 |
| 調査実施： | 一般財団法人道南歴史文化振興財団 | 調査期間： | 平成30年４月16日から６月29日まで |
| 調査理由： | 開発事業（道路） | 調査面積： | 655㎡ |

**調査の概要**

函館新外環状道路建設に伴って平成27年度から調査を開始し，今年度で４年目の調査となります。遺跡は海岸から約３㎞離れた湯の沢川の右岸にあり，標高50m前後の緩斜面に立地します。

今年度は過年度の調査区に挟まれた市道部分など３地点の調査を行いました。調査の結果，これら３地点から縄文時代後期の竪穴建物跡１軒，土坑墓５基，焼土91か所，同時代に掘られた落し穴２基を確認しました。出土遺物は縄文後期を主体とする土器や石器などで，出土数は約3,000点です。

竪穴建物跡は湯の沢川に合流する沢地形の縁にあります。地床炉を伴い，床面から注口土器のほか，つまみ付ナイフ，磨石，砥石，台石がセットで出土しました。土坑墓５基は湯の沢川の崖面に近い地点で確認しました。この付近では過去の調査でも土坑墓４基を確認しており，これらと合わせ墓域を形成することがわかりました。土坑墓は隅丸長方形や長楕円形を呈すもので，過去の調査では碧玉製垂飾品や配石を伴うものも確認しています。焼土は，これまでの調査で湯の沢川に合流する沢地形沿いに分布することが判明しており，今回確認した焼土もこの一群に含まれるものです。遺物は後期中葉の土器やこれに伴う石器類が主体で，スタンプ型土製品や軽石製品なども出土しています。また，早期の貝殻文土器や続縄文時代の恵山式土器も少量出土しています。

調査報告書は平成30年度内に刊行する予定です。

調査区遠景

出土したスタンプ型土製品

## この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は･･･

◆日吉町A遺跡について

**函館市教育委員会 生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当**
住所：函館市東雲町4-13　　電話：0138-21-3472
ホームページ：http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/

◆函館市内の遺跡について

**函館市縄文文化交流センター**
住所：函館市臼尻町551-1　　電話：0138-25-2030
ホームページ：http://www.hjcc.jp/
開館時間：（４月～10月）9:00～17:00、（11月～３月）9:00～16:30
閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など

一覧へ戻る

はこだてし　おおふねエイチいせき

# 函館市　大船H遺跡 （B-01-323）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 発掘主体： | 函館市教育委員会 | 調査地： | 函館市大船町583-1･2,584-1,598-1～3,599 |
| 調査実施： | 一般財団法人道南歴史文化振興財団 | 調査期間： | 平成30年５月７日から10月10日まで |
| 調査理由： | 開発事業（道路） | 調査面積： | 3,950㎡ |

**調査の概要**

遺跡は、大船町を流れる大舟川支流のテッペイ川左岸、標高約60mの海岸段丘上に位置しています。当地域では、層厚約50㎝の駒ヶ岳火山灰（ko-f・ko-g）を挟んで上下に文化層が認められ、上層をⅢ層（縄文前期以降）、下層をⅤ層（早期）として２面の調査を実施しています。

Ⅲ層の調査で確認した遺構は、竪穴建物跡８軒、土坑22基、柱穴状土坑11基、焼土３か所、剥片集中１か所です。竪穴建物跡はいずれもテッペイ川に面した調査区南側に構築されていて、時期は縄文時代前期と中期と考えられます。竪穴建物跡ＰＤ－１は覆土下部から床面直上にかけて炭化材や焼土粒が出土していることから火災住居と思われます。土坑は断面形がフラスコ状のものが10基ありました。土層の観察等から、近接する竪穴建物跡とほぼ同時期に利用された貯蔵穴と考えられます。

遺物は竪穴建物跡の内外を中心に分布し、縄文時代前期から後期前葉の土器や石鏃、石槍、スクレイパーなどの石器類合わせて約1,800点が出土しました。また調査区西側から遺物が流れ込むような状況もあることから、遺跡の主体は更に西側へ拡がると考えられます。

Ⅴ層の調査で確認した遺構は、土坑３基、柱穴状土坑３基、炭化物集中４か所です。遺物は早期中葉の貝殻文尖底土器の破片と早期末の土器（東釧路Ⅳ式）が少量出土しました。石器類は、石鏃、石槍、スクレイパー、石斧、敲石、砥石などがみられ、合わせて約100点が出土しました。遺構や遺物は主に調査区中央から北側に分布していました。今回の調査で竪穴建物跡や土坑の一部が調査区南端へ拡がることを確認したため、次年度以降残り部分を調査する予定です。

報告書は平成30年度以降に刊行する予定です。

竪穴建物跡（PD-1）遺物出土状況

作業風景

## この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は･･･

◆大船H遺跡について

**函館市教育委員会 生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当**
住所：函館市東雲町4-13　　電話：0138-21-3472
ホームページ：http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/

◆函館市内の遺跡について

**函館市縄文文化交流センター**
住所：函館市臼尻町551-1　　電話：0138-25-2030
ホームページ：http://www.hjcc.jp/
開館時間：（４月～10月）9:00～17:00、（11月～３月）9:00～16:30
閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など

一覧へ戻る

はこだてし　うすじりエーいせき

# 函館市　臼尻A遺跡 （B-01-237）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 発掘主体： | 函館市教育委員会 | 調査地： | 函館市臼尻町357-1 |
| 調査実施： | 一般財団法人道南歴史文化振興財団 | 調査期間： | 平成30年５月７日から10月25日まで |
| 調査理由： | 開発事業（道路） | 調査面積： | 1,485㎡ |

## 調査の概要

臼尻漁港臨港道路建設に伴う発掘調査は平成26年度から実施され、今年度で５年目になります。遺跡は臼尻町の弁天岬に面した標高約40m，海岸線から直線距離で400mほどの海岸段丘上に位置しています。当地域では、層厚約50㎝の駒ヶ岳火山灰（ko-f・ko-g）を挟んで上下に文化層が認められ、上層をⅢ層（縄文前期以降），下層をⅤ層（縄文早期）として２面の調査を実施しました。

Ⅲ層の調査で確認した遺構は、竪穴建物跡１軒、土坑３基、落し穴１基、柱穴状土坑９基、焼土１か所です。竪穴建物跡は調査区北側で調査区外へと広がる形で確認され、掘り込みは比較的浅く、中央部には石囲炉があります。土坑の内１基は調査区北側で確認された断面形がフラスコ状を呈する貯蔵穴と考えられるものです。遺物は縄文時代中期から後期の土器や石鏃、スクレイパー、石斧、敲石、擦石などの石器類合わせて約2,200点が出土しました。遺物の分布は北側に多く、北東方向の海側に向かってやや多く分布する傾向がありました。

Ⅴ層の調査で確認した遺構は、土坑18基、柱穴状土坑６基、焼土１か所です。土坑は調査区南側の標高の高い部分で大小の11基が密集する一群がありました。遺物は縄文時代早期中葉から後葉の土器や石鏃、スクレイパー、敲石、擦石、砥石などの石器類合わせて約600点が出土しました。遺物の分布は、調査区中央部から西側の山側方向に向かってやや多く分布する傾向がありました。

調査報告書は平成30年度内に刊行する予定です。

竪穴建物跡（Ⅲ層）

土抗群（Ⅴ層）

## この遺跡についてのお問合せや、函館市の遺跡をもっと知りたい方は･･･

◆臼尻Ａ遺跡について

**函館市教育委員会 生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当**
住所：函館市東雲町4-13　　電話：0138-21-3472
ホームページ：http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soshiki/bunkazai/

◆函館市内の遺跡について

**函館市縄文文化交流センター**
住所：函館市臼尻町551-1　　電話：0138-25-2030
ホームページ：http://www.hjcc.jp/
開館時間：（４月～10月）9:00～17:00、（11月～３月）9:00～16:30
閉館日：月曜日・毎月最終金曜日・年末年始など

一覧へ戻る

もりまち　わしのきにだいばあと

# 森町　鷲ノ木2台場跡　(B-14-026)

発掘主体：　森町教育委員会
調査理由：　詳細分布
調　査　地：　茅部郡森町字鷲ノ木町455ほか
調査期間：　平成30年６月12日から９月28日まで
調査面積：　35㎡

## 調査の概要

鷲ノ木２台場跡は森町市街地から西に４kmほど離れた内浦湾沿いの段丘上に位置しています。明治元年から始まる箱館戦争に先立ち、旧幕府軍が北海道に上陸した際に築いた台場の一つです。旧幕府軍に従軍した兵士の日記等の文献から、台場が建造されたことまでは分かっていますが、位置や平面形は不明となっています。昭和54年に北海道教育委員会が分布調査を行っており、その時の記録を元にして平成29年には森町教育委員会で詳細分布調査を実施し、人為的に造成された可能性のある地形を確認しています。

平成30年の調査は、昨年確認された地形が江戸時代末期から明治時代初期にかけて形成されたものなのかを調べるために、遺構・遺物の有無と地形の成り立ちの確認を目的として行われました。調査区は標高37.5～40mの斜面上に１箇所、標高40～42mの台地上に４箇所の計５箇所設定しています。このうち斜面上に設定した調査区では、1640年に駒ヶ岳が噴火した際の火山灰（Ko-d層）を掘り込む土坑が２基検出されています。２基の土坑の底面からは、現代の金属製品が出土しているため、時期は現代だと考えられます。

今回の調査では、江戸時代末期から明治時代初期にかけての遺構・遺物は検出できませんでした。台場が過去の調査記録とは異なる場所に築かれたのか、あるいは土塁を形成しない構造物であったのかは今後の調査の課題となります。

これらの調査成果については平成30年度末に発掘調査報告書として刊行予定です。

調査区近景

試掘状況

## この遺跡についてのお問合せや、森町の遺跡をもっと知りたい方は･･･

◆鷲ノ木２台場跡について

森町教育委員会まで
電話：01374-2-2186

◆森町内の遺跡について

森町遺跡発掘調査事務所まで
住　　所：茅部郡森町字森川町292-24　　電　　話：01374-3-2240
開館時間：9:00~16:00　　閉 館 日：土日祝日・年末年始

かみのくにちょう　しせき　かみのくにたてあとのうち すざきたてあと

一覧へ戻る

# 上ノ国町　史跡　上ノ国館跡のうち洲崎館跡　（C-02-025）

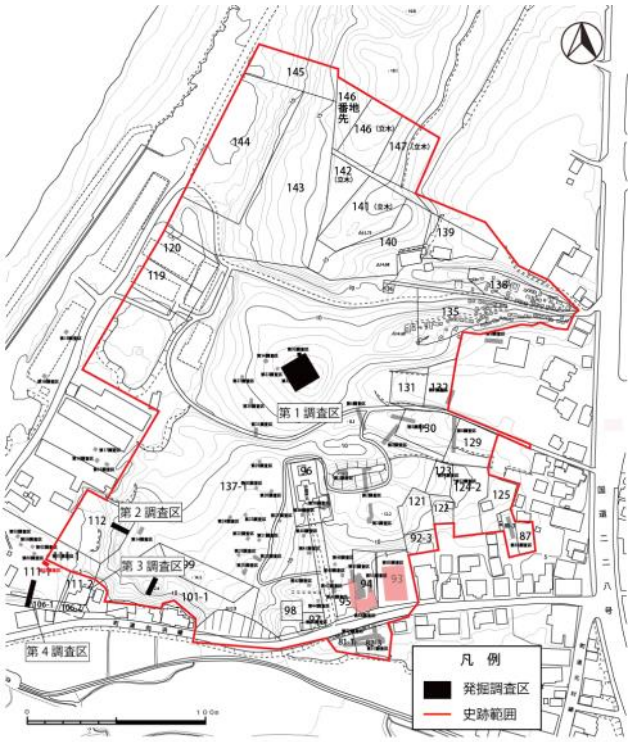
| | | | |
|---|---|---|---|
| 発掘主体： | 上ノ国町教育委員会 | 調査地： | 檜山郡上ノ国町字北村地内 |
| 調査理由： | 遺構内容確認 | 調査期間： | 平成30年６月４日から10月10日まで |
| | | 調査面積： | 245㎡ |

## 史跡の概要

洲崎館跡は、天の川の河口から北に約１kmの日本海に面した標高５m前後の砂丘平坦面上に所在しています。

洲崎館跡は、長禄元年（1457年）のアイヌとの戦いで功績を挙げ、季繁の娘婿となった武田信広が天ノ川河口右岸に洲崎館を築いたとされています。平成11～13年に洲崎館跡の内外で分布調査を実施し、掘立柱及び竪穴建物跡などの遺構の他、青磁・白磁・染付・古瀬戸・珠洲・越前・信楽焼の陶磁器や金属製品、アイヌが使用した骨角器の遺物がみつかっています。

また、洲崎館跡では、土塁や空堀といった館跡に特徴的な遺構が検出されておらず、縄張りについてはまだ十分な把握ができていません。出土する中世陶磁器の年代は13世紀後半～16世紀初頭を示し、文献史料で示される築城年代より古い遺物が散見されています。




洲崎館跡指定地内発掘調査区位置図

## 調査目的・方法

発掘調査は、洲崎館の規模と構造（縄張り）の把握を目的として、４つの調査区を設定しました。第１調査区は、毘沙門堂（1462年建立）跡地と考えられる平坦面においてグリッド調査を行い、第２・３・４区調査区は土塁と考えられる盛土の層位断面の確認と防御施設の有無を確認するため、トレンチ調査を行っています。

## 調査成果

第１調査区は毘沙門堂に関する遺構・遺物がありませんでした。第２・３調査区は、土塁と考えられた高まりが昭和8年の隔離病棟の造成に伴う盛土であることが判明しました。

また、第３調査区では洲崎館が機能していた15世紀中頃の青磁蓮弁文碗片１点（B2類）と越前すり鉢片１点、珠洲すり鉢片３点（Ｖ期）、和釘１点、その他擦文時代の小甕の底部と思われる土器片１点が出土しました。第４調査区では、土塁と考えられた高まりが近代以降の畑の造成に伴う砂山であることが判明しました。

来年度以降も洲崎館内における発掘調査を実施して、防御施設及び洲崎館跡の構造の把握を行う予定です。

一覧へ戻る

よいちちょう　はちまんやまいせき

# 余市町　八幡山遺跡　（D-19-030）

発掘主体：　余市町教育委員会　　調査期間：　平成30年９月１日から11月２日まで

調査理由：　開発事業（道路）　　調査面積：　618㎡

調　査　地：　余市郡余市町黒川町707

## 調査の概要

八幡山遺跡は、余市町の市街地から５kmほど離れた黒川町登川線沿い、標高９～11ｍを測る丘陵地の緩斜面上に位置しています。調査前は、宅地・畑として利用されていた土地です。

遺跡の調査は平成30年12月に開通した後志自動車道余市ICから仁木方面へ延伸する一般国道５号倶知安余市道路（共和-余市）の建設に伴い今年度より始まりました。主要な遺構として、擦文住居２軒、続縄文住居？１軒の他、フレーク集中、性格不明遺構、焼土遺構、溝、土坑、ピットが多数検出されています。

また、出土遺物は縄文土器、続縄文土器、擦文土器、近世陶磁器、石器(石鏃、石斧、台石、擦石、石核、剥片･チップ)、土製紡錘車、金属器など、総点数約5,000点の遺物が出土しています。

１号擦文住居（SH1）は5.2ｍ×5.1ｍの概ね正方形の住居です。深さは30cm以上で、南西向きのカマドが確認されています。住居の床面は貼床面でなく硬化面で、住居内の壁際の一部に周溝も確認されました。主柱穴は４本で、深さは35～45cmほどです。床面から見つかった遺物のほとんどが東側で集中的に発見されています。

２号擦文住居（SH2）は4.0ｍ×3.5ｍの方形の住居です。住居東側は用水路により壊されており、本来は正方形に近いものと思われます。深さは30cm以上で、南西向きのカマドが確認されています。カマド内には倒置されている土器や、カマドの支脚として利用されていたと考えられる土器も発見されています。また、住居の柱となる穴は確認されていませんが、住居内を区画するように並んで径10cm～25cmの穴（ピット）が確認されていることから、SH1とは住居内の様子が少し異なっているようです。

八幡山遺跡は次年度も引き続き発掘調査を行います。なお、本年度の調査報告書は次年度の調査終了後、２箇年度分併せての刊行を予定しています。

SH1 完掘状況

SH2 カマド土器出土状況

## この遺跡についてのお問合せは･･･

余市水産博物館まで

住　　所：余市町入舟町21　　電　　話：0135-22-6187　　開館時間：9:00~16:30

閉 館 日：月曜日、祝日の翌日、12月上旬～４月中旬まで冬期休館（休館中は平日であればお問い合せに対応いたします。）

一覧へ戻る

えさしちょう　めなしどまりいせき

# 枝幸町　目梨泊遺跡 （H-05-042）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 発掘主体： | 枝幸町教育委員会 | 調査期間： | 平成30年８月７日から８月10日まで |
| 調査理由： | 学術研究 | 調査面積： | 18㎡ |
| 調査地： | 枝幸郡枝幸町目梨泊43-2 | | |

## 調査の概要

目梨泊遺跡は、枝幸市街地から北に約10㎞、オホーツク海に面した段丘上に位置しています。オホーツク文化最大級の集落遺跡として知られており、これまでの発掘調査によって23万点を超える遺物が見つかっています。出土品の中には、大陸や本州からもたらされた装飾品や武具が数多く含まれており、平成12年に出土品319点が国の重要文化財に指定されました。

今回の学術調査は、平成30年度より枝幸町が取り組んでいる「歴史と文化が人をつなぐ交流促進事業」の一環として、町外の専門家、研究者と地域住民がともに学びあい「地域の学び」の裾野を広げることを目的としています。町外から札幌大学の川名広文先生とそのゼミ生をお招きし、地元からは枝幸高等学校総合文化研究部の生徒や文化財保護委員を中心としたボランティアが参加しました。枝幸高校の生徒たちは今回の調査にあたり、町立博物館施設「オホーツクミュージアムえさし」を拠点として、オホーツク文化の基礎知識や、発掘道具の使い方などを４カ月にわたって事前に学んできました。

調査地点は、過去の学術調査により後世の攪乱を受けていることが分かっていたのですが、今回の調査によって、攪乱層の下から墓壙と推定される「砂利」の集積が見つかり、さらに鉄製の刀２点が出土しました。刀については、クリーニングの結果、刀装具を「金」で飾り、さらに花弁をモチーフとした繊細な彫刻が施されていることがわかりました。「金銅装直刀」と名付けたこの刀は、オホーツク文化では初めての出土例であり、北海道内でもほとんど類例がありません。共伴する土器の型式からオホーツク文化期後期の８世紀～９世紀と推定されます。当時の律令国家の北進を背景とした、本州の人々とオホーツク文化の人々との強い結びつきを示す重要な資料といえるでしょう。

発掘調査は平成31年度も継続して実施し、次年度以降に報告書の刊行を予定しています。

出土した金銅装直刀・刀装具・小刀

花弁文様が刻まれた足金具

## 目梨泊遺跡についてもっと知りたい方は･･･

オホーツクミュージアムえさし　まで

住　　所：枝幸郡枝幸町三笠町1614-1　　電　　話：0163-62-1231

開館時間：9:00~17:00　　閉 館 日：毎週月曜、月末の火曜

一覧へ戻る

りしりちょう　またわっかかいづか

# 利尻町　亦稚貝塚　(H-09-002)

発掘主体　：　利尻町教育委員会
調査理由　：　学術研究
調　査　地　：　利尻郡利尻町沓形字本町89番地2
調査期間　：　平成30年５月12日
調査面積　：　2.0㎡

## 調査の概要

亦稚（マタワッカ）貝塚は、利尻島西部の沓形フェリーターミナルの南方、宗谷バス㈱利尻営業所を中心とした地点に立地しています。「マタワッカ」とは、アイヌ語で「冬でも凍らない湧き水のある処」という意味になるそうです。人々が暮らすのには、昔から好適地であったのでしょう。亦稚貝塚は1977年に待合所改築に伴って大規模に調査されました。その結果、オホーツク文化の貴重な遺物がたくさん発見され、学界からも注目されました。その一部は北海道の文化財にも指定され、調査後に設立された利尻町立博物館で公開されています。

その後、遺跡の周辺は市街地化が急速に進行したため、継続的な調査は一度も行われませんでした。今回は遺跡の残存状況を確認するために、バスターミナル崖下の空き地をごく小規模に試掘しました。表土から３層までは近現代の遺物を多量に含む堆積層ですが、４層では、オホーツク文化の土器・骨角器・石器が豊富に発見されました。なかでも、大陸から伝来したと思われる骨製品の出土が注目されます。

調査場所

出土したオホーツク式土器の一例

## 本調査などについてのお問い合わせは･･･

利尻町立博物館まで

住所：097-0311 利尻郡利尻町仙法志字本町136　　電話：0163-85-1411
開館時間：9:00~17:00　　閉館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始

一覧へ戻る

りしりふじちょう　ぬまうらかいすいよくじょういせき

# 利尻富士町　沼浦海水浴場遺跡　（H-10-016）

発掘主体　：　利尻富士町教育委員会（礼文・利尻島遺跡調査の会）
調査理由　：　学術研究
調　査　地　：　利尻郡利尻富士町鬼脇字沼浦132･146番地
調査期間　：　平成30年４月27日から５月16日まで
調査面積　：　12.5㎡

## 調査の概要

沼浦海水浴場遺跡は、利尻島の南東部に所在する沼浦地区に位置しており、標高４～５ｍほどの砂浜海岸に立地しています。本地区は、アイヌ語で「ヲタトマリ（砂浜のある入江）」とよばれ、周辺には沼浦湿原やオタトマリ沼などの景勝地が広がっています。

沼浦地区は、明治時代においてすでに遺物採集の記録があり、その後昭和時代に入ってから小規模な試掘調査が数度にわたり行なわれました。各調査では、続縄文時代やオホーツク文化期を中心とした土器や石器のほか動物骨などが多数出土しています。

沼浦海水浴場遺跡の調査は、今回で３次目となりました。オホーツク文化期の魚骨層や土器、石器などが発見されており当時の食生活や狩猟のようすが垣間見られます。

とくに、今回は大陸由来と考えられる陶質土器片や金属製品が出土し、調査区の広い範囲で木質の堆積層や鉄製品が見つかっています。これらの分析を含め、次年度についても継続調査が予定されています。

木質の堆積層（A3層）

出土した金属製品

## この遺跡についてのお問合せや、利尻富士町の遺跡をもっと知りたい方は･･･

利尻富士町教育委員会
電　話：0163-82-1370　　メール：kyoui-shakyo@town.rishirifuji.hokkaido.jp

りっぷ館
住所：利尻富士町鴛泊字栄町　　電話：0163-82-1721　　開館期間：５月１日～10月31日（9:00~17:00）

一覧へ戻る

ゆうべつちょう　しぶのつないたてあなじゅうきょぐん

# 湧別町　シブノツナイ竪穴住居群　（I-21-035）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 発掘主体： | 湧別町教育委員会 | 調査期間： | 平成30年７月10日から11月１日まで |
| 調査理由： | 詳細分布 | 調査面積： | 12㎡ |
| 調査地： | 紋別郡湧別町川西499-1･2, 502-1･2, 503, 506-1･2, 714, 717～720, 722-1～3, 930 | | |

## 調査の概要

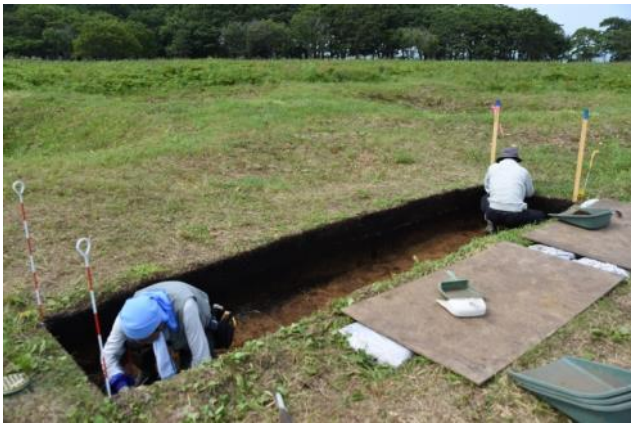
シブノツナイ竪穴住居群は湧別市街地から西に４kmほど、シブノツナイ湖と湧別川の支流センサイ川に挟まれた標高４～５ｍの台地の北端に位置しています。

本遺跡の特徴は、竪穴住居跡と考えられる地表面の窪みが約４haの範囲の中に530か所も確認できることで、昭和42年３月17日に北海道指定史跡「シブノツナイ竪穴住居跡」として指定されています。竪穴住居跡はその半数以上の平面形状が方形であることから、擦文文化期のものだと考えられています。しかし、平面形状は方形だけでなく、円形・柄鏡形・多角形などがあることから、この遺跡は縄文文化・続縄文文化・オホーツク文化など様々な時期、長さにわたるものと考えられています。

古くは昭和30～40年代に竪穴住居跡の発掘調査が行われましたが、近年では北海道立埋蔵文化財センターによって平成27年から29年にかけて測量や発掘調査が行われています。平成30年度は、遺跡の内容をより詳細に把握するために湧別町が主体となって発掘調査を行いました。調査を行ったのは竪穴住居群の北側平坦地で、１×５ｍの範囲で２か所です。新たに竪穴住居跡は見つかりませんでしたが、続縄文文化期の土器・石器が出土しました。昨年度の成果に引き続き、竪穴住居跡の北側平坦地が続縄文文化の人々の活動範囲だったことが確認されました。その他、竪穴住居跡すぐ横の調査区からは、火山灰が堆積したと考えられる土層が確認されました。火山灰の化学分析はまだ行っていませんが、西暦900年頃に降下した摩周b（Ma-b）と考えられ、今後竪穴住居跡の年代を特定する上で重要な情報となりそうです。

今年の調査成果として、発掘調査報告書を平成30年度末に刊行予定です。来年度も同程度の規模の発掘調査を予定しています。

シブノツナイ竪穴住居群　全景



発掘調査風景

## この遺跡についてのお問い合せや、湧別町の遺跡をもっと知りたい方は･･･

湧別町教育委員会ふるさと館ＪＲＹ・郷土館まで
住　　所：湧別町北兵村一区588番地　　電　　話：01586-2-3000
開館時間：9:00~16:30（入館は16:00まで）　　閉 館 日：月曜日（祝日は開館）、年末年始

一覧へ戻る

とまこまいし　おぼっぷいちいせき

## 苫小牧市　覚生1遺跡　（J-02-215）

発掘主体：　苫小牧市埋蔵文化財調査センター

調査理由：　開発事業（樽前山火山砂防工事）

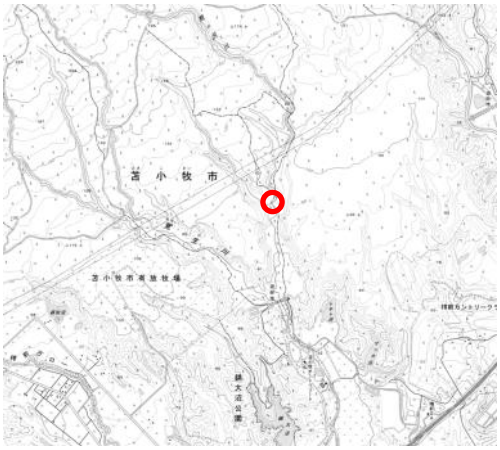
調査地：　苫小牧市字錦岡495-750

調査期間：　平成30年７月３日から８月31日

調査面積：　500㎡

**調査の概要**

樽前山火山砂防工事に伴う砂防えん堤建設工事に伴い発掘調査を行いました。平成29年からの継続調査で、今年は落し穴２基、遺物は５点出土しています。時期は縄文時代と続縄文時代です。




覚生１遺跡位置図

とまこまいし　ゆうふりいちいせき

## 苫小牧市　勇振1遺跡　（J-02-278）

発掘主体：　苫小牧市埋蔵文化財調査センター

調査理由：　開発事業（道路）

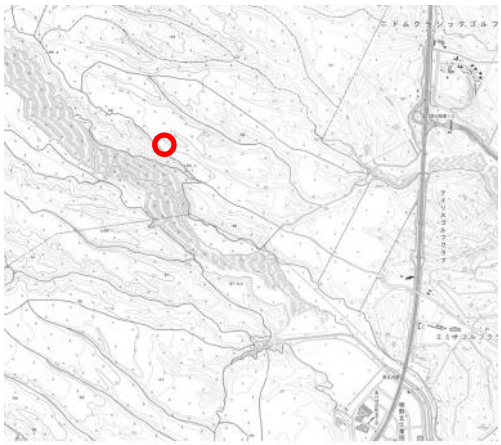
調査地：　苫小牧市字植苗620-1

調査期間：　平成30年５月８日から６月30日

調査面積：　1,000㎡

**調査の概要**

植苗地区のレジャー施設建設に伴い、平成26年の試掘調査により発見され、平成28年には舗装道路建設に伴い試掘調査が行われ、今回の発掘調査となりました。調査では、住居跡１基、焼土跡２基が発見され、遺物は石器や礫を主体に1,000点ほど出土しています。時期は、縄文時代前期です。



勇振１遺跡位置図

とまこまいし　しずかわよんじゅうよん・よんじゅうご・よんじゅうろく・よんじゅうななないせき

## 苫小牧市　静川44･45･46･47遺跡　（J-02-292～295）

発掘主体：　苫小牧市埋蔵文化財調査センター

調査理由：　詳細分布

調査地：　苫小牧市字静川7-15ほか

調査期間：　平成30年９月４日から10月24日

調査面積：　207㎡（1.5×6mの試掘溝23本）

**調査の概要**

苫東開発区域内の静川地区の調査で、新たに静川44～47遺跡を発見しました。遺物は静川44遺跡で４点、静川45遺跡で176点、静川46遺跡で６点、静川47遺跡で16点出土しています。静川44遺跡が続縄文時代、ほかは縄文時代です。

静川44～47遺跡位置図

苫小牧市の遺跡をもっと知りたい方は、苫小牧市埋蔵文化財調査センターまで

住所：苫小牧市末広町3丁目9番7号　電話：0144-35-2552　閉館日：月曜日、年末年始

一覧へ戻る

だてし　かむいたぷこぷしたいせき

# 伊達市　カムイタプコプ下遺跡　（J-04-089）

発掘主体：　伊達市教育委員会
調査理由：　学術研究
調　査　地：　伊達市向有珠町203-1
調査期間：　平成30年10月５日から10月15日まで
調査面積：　211㎡

## 調査の概要

伊達市有珠地区所在のカムイタプコプ下遺跡は、平成22年度に添田雄二氏（北海道博物館学芸員）が実施した地質調査の際に発見されたアイヌ文化期の遺跡です。地表下には1663年の有珠山噴火に由来する火山灰と1640年の駒ヶ岳噴火の山体崩壊に由来する津波堆積物が存在し、この年代がわかっている２つの層の間からは23年間に限定できるアイヌ文化期の遺構が検出されています。近世アイヌ文化期の人々の暮らしに自然環境の変化がどのような影響を与えたのかを明らかにするために、科学研究費助成事業「小氷期最寒冷期と巨大噴火・津波がアイヌ民族へ与えた影響」（基板研究（B）研究者：添田雄二）による学術調査を平成27年度から平成30年度にかけて実施しました。

漆器（左）と磁器（右）の出土状況

17世紀の畑跡

これまでの調査によって、チセ跡（アイヌ民族の住居）、畑跡、貝塚、墓址などが発見されています。今年度は前年度調査で検出された畑跡の範囲や新たなチセ跡を検出することを目的とした調査が行われました。

畑跡は遺構の末端を検出し、範囲を確認する事ができるとともに、畝跡に残された作物痕跡の記録と土壌サンプルの採取を行いました。また、チセ跡の可能性のある柱穴を検出しましたが、住居の構成要素である炉跡が検出できなかったため、チセ跡であると確定することはできませんでした。これらは今後の調査によって明らかにしたいと考えています。

遺物は鉄製品や動物骨に加えて漆膜と磁器が出土しています。磁器はろくろを用いて大量生産された物で、本州の製品がカムイタプコプ下遺跡に持ち込まれていたことがわかりました。

今後は今回の調査結果とこれまでに蓄積されたデーターをまとめた総括報告書を刊行する予定です。また、今年度の調査速報は『北海道博物館研究紀要』に掲載される予定です 。

## この遺跡についてのお問合せや、伊達市の遺跡をもっと知りたい方は･･･

◆カムイタプコプ下遺跡について

**伊達市教育委員会 生涯学習課文化財係まで**
電話：0142-23-3331

◆伊達市内の遺跡について

**だて歴史文化ミュージアム（平成31年４月３日オープン）まで**
住所：伊達市梅本町57-1
電話：0142-25-1056　　開館時間：9:00~17:00
休館日：月曜日（月曜が休日の場合はその翌日、連休の場合は終了日の翌日）

一覧へ戻る

あつまちょう　とよさわろくせき

# 厚真町　豊沢6遺跡　（J-13-115）

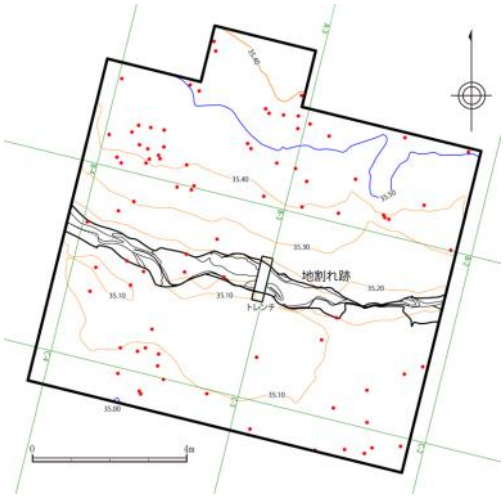
発掘主体：　厚真町教育委員会
調査理由：　開発事業（個人住宅）
調　査　地：　勇払郡厚真町字豊沢240-121
調査期間：　平成30年11月12日から12月４日まで
調査面積：　90㎡

## 調査の概要

厚真町は胆振総合振興局管内東部に位置し、夕張山地南部を源流とした流路延長52.3kmの２級河川厚真川流域に広がる稲作を中心とした農業の町です。遺跡は厚真町中部に位置し、厚真川支流の当麻内川流域の枝沢平井の沢川右岸に所在し、丘陵裾の標高35.0～35.5mの南向き緩斜面に立地しています。平成20年に住宅地分譲の区画整理に伴う試掘調査で確認された遺跡です。

発掘調査は、個人住宅建設のために実施したもので、縄文土器41点、石器類10点、剥片類23点、礫５点の計84点が出土しました。時期的には縄文時代中期後葉の柏木川式土器、末葉の北筒式土器が主体です。遺構は検出されず、遺跡の主体部は今回の調査区外に所在しているものと思われます。

上記の考古学的成果のほか、樽前ｃ火山灰（約2,500年前に降下）より新しく、白頭山苫小牧火山灰（10世紀前半に降下）よりも古い時期の地震による地割れ跡を検出しました。層位より続縄文文化期前半の可能性があります。今回の北海道胆振東部地震でも調査区内の南端部に浅い亀裂が生じており、その規模などから過去の地震が震度６ないしは７クラスの地震であったことが想定できました。



遺物分布図

地割れ跡

この遺跡についてのお問い合せや、厚真町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

厚真町教育委員会 生涯学習課社会教育グループ 軽舞遺跡調査整理事務所（旧軽舞小学校）まで
電　　話：0145-28-2733　　メールアドレス：shakai@town.atsuma.lg.jp

一覧へ戻る

あつまちょう　ほろないはちいせき

# 厚真町　幌内8遺跡　（J-13-136）

発掘主体：　厚真町教育委員会
調査理由：　開発事業（農地整備）
調　査　地：　勇払郡厚真町字幌内564
調査期間：　平成30年６月１日から11月16日まで
調査面積：　1,023㎡

**調査の概要**

厚真町は北海道胆振総合振興局管内の胆振東部に位置し、埋蔵文化財包蔵地として登載されている遺跡数は平成31年１月現在で142ヶ所になります。幌内8遺跡は今年度の新規事業で道営農地整備に伴う埋蔵文化財発掘事業です。

遺跡は厚真川河口から約27km上流の幌内地区に所在し、厚真市街地からは北東へ約11kmに位置しています。幌内８遺跡は南西側が近現代の開拓によって一部削平されていますが、北東側は自然地形のままで、水田の中に小高い丘が残る独立丘という地形に形成されていました。標高は約46mで北側に厚真川、南東側に日高幌内川、南側にシュルク沢が流下しています。この独立丘は３方向を河川に囲まれていますが樽前dテフラ（約8,000年前降下）以降に水害の痕跡はなく、厚真川本流や支流に近く日照条件の良い地点に立地している遺跡です。

土器集中出土の北大Ⅰ式土器

縄文時代竪穴式住居跡（手前側は削平）

発掘調査は当初年度内の計画でしたが、９月６日に発生した胆振東部地震の影響で調査できない期間があり、今年度は縄文時代のⅥ層上位（漸移層）で調査終了しました。

今回の調査では中世アイヌ文化期、続縄文文化期、縄文時代の遺構、遺物が見つかっています。

中世アイヌ文化期では炉跡のほか棒状礫の集中が９ヵ所、未被熱のシカ骨が集中する地点（獣骨集中）を検出しました。続縄文文化期では焼土６ヵ所、土器集中７ヵ所、礫集中１ヵ所、獣骨集中９ヵ所を検出しました。土器は後半の北大Ⅰ式土器が主体的に出土しています。縄文時代は早期から晩期まで土器が出土していますが、主体となる時期は縄文時代中期後半の天神山式土器です。縄文時代の遺構は竪穴式住居跡が１軒、土坑１基、灰集中１ヵ所、焼土42ヵ所、土器集中４ヵ所、礫集中１ヵ所です。竪穴式住居跡は南西側が削平されていたため断面で床面が樽前dテフラまで掘り込まれていることが確認できていました。完掘すると約半分が残されていて、柱穴７本、中央付近に炉跡１ヵ所が見つかっています。この住居跡には床面から時期を特定できる遺物は出土していませんが、堆積状態から縄文時代前期～中期ごろと考えられます。

遺物は総数で約38,000点になり、その内縄文時代の遺物が８割を占めています。

来年度は残りのⅥ層調査と報告書刊行を予定しています

## この遺跡についてのお問い合せや、厚真町の遺跡をもっと知りたい方は･･･

厚真町教育委員会 生涯学習課社会教育グループ 軽舞遺跡調査整理事務所（旧軽舞小学校）まで
電　　話：0145-28-2733　　メールアドレス：shakai@town.atsuma.lg.jp

一覧へ戻る

むかわちょう　しののめいちいせき

# むかわ町　東雲1遺跡 （J-14-103）

発掘主体：　むかわ町教育委員会
調査理由：　詳細分布
調　査　地：　勇払郡むかわ町穂別461
調査期間：　平成30年５月11日から５月29日まで
調査面積：　5.5㎡

## 調査の概要

東雲１遺跡は、穂別市街地から東南に１kmほど離れた鵡川左岸の段丘上に立地しています。遺跡のある場所は、町の中村記念公園として整備されており、東雲１遺跡の他にニサナイ１遺跡や、アイヌ文化期のニサナイチャシ跡、東雲チャシ跡も所在しています。

東雲１遺跡は、現地表面に擦文文化期の竪穴住居跡の窪みが残る遺跡です。平成28年度及び平成29年度に計２基の竪穴住居跡の試掘を行いました。今年度は、竪穴より西側の平坦地について、遺跡内容確認のための発掘調査を実施しました。発掘調査においては、現地表面にわずかな窪みのある場所を選定して２基のトレンチを掘削しました。発掘調査の結果、トレンチ内で確認した倒木痕跡の土中から縄文土器の破片が２点出土しました。

穂別では、昭和30年代にかけて北海道穂別高等学校の郷土研究部が、精力的に所在調査を実施した経緯があり、上記の東雲１遺跡の他、穂別市街地周辺から穂別仁和に至る、鵡川の河岸段丘沿いの遺跡において、擦文文化期の竪穴住居跡の窪みが発見されています。

北海道は道東地方を中心として多数の竪穴住居跡が窪みの状態で残されていると言われており、本町で発見された竪穴住居跡の窪みも、北海道の歴史文化を代表する埋蔵文化財であると位置付けられます 。

東雲１遺跡遠景（丘の上が遺跡）

発掘調査風景

## この遺跡についてのお問い合せは･･･

むかわ町教育委員会 生涯学習課社会教育グループまで
電話：0145-42-2487　mail：skyouiku@town.mukawa.lg.jp

一覧へ戻る

さまにちょう　ふゆしまいせき

# 様似町　冬島遺跡 (K-08-011)

発掘主体：　様似町教育委員会
調査理由：　詳細分布
調　査　地：　様似郡様似町字冬島39番地
調査期間：　平成30年８月３日から８月６日まで
調査面積：　16.25㎡

## 調査の概要

冬島遺跡は、様似町市街地から6kmほど離れた冬島地区の海岸段丘と思われる台地上に位置しています。この遺跡は、昭和56年に地元郷土史愛好団体がその一部を発掘調査し、竪穴式住居跡などが出土していました。

教育委員会では冬島遺跡の範囲や遺跡の性格を調査するために平成26年度から発掘調査を実施しています。

今年度の調査では、遺構ではピットが２基検出されました。また、遺物では続縄文文化期初頭の土器片・石器（石鏃・つまみ付きナイフなど）・骨角器・動物遺存体（獣骨・魚骨）が出土しました。

今回の調査で特に注目される点としては、遺物包含層の一部で動物遺存体を多く含む層がある点です。このことから、冬島遺跡が貝塚的な要素を持っていることがわかりました。日高管内沿岸部で続縄文文化期の貝塚遺跡の調査例は少なく、これらの地域の漁労や交易を知るために重要な遺跡です。

また、これらの調査の報告書については、来年度刊行予定です。

調査区近景

出土した骨角器（銛頭）

## この遺跡についてのお問い合せは･･･

様似郷土館まで
住所：様似町会所町1番地　　電話・FAX：0146-36-3335

一覧へ戻る

なかしべつちょう　しべつがわきゅういせき

# 中標津町　標津川9遺跡　（N-03-056）

発掘主体：　中標津町教育委員会
調査理由：　詳細分布
調査地：　標津郡中標津町西８条北５丁目２番１
調査期間：　平成30年８月４日、８月14日から18日、10月20日
調査面積：　21㎡

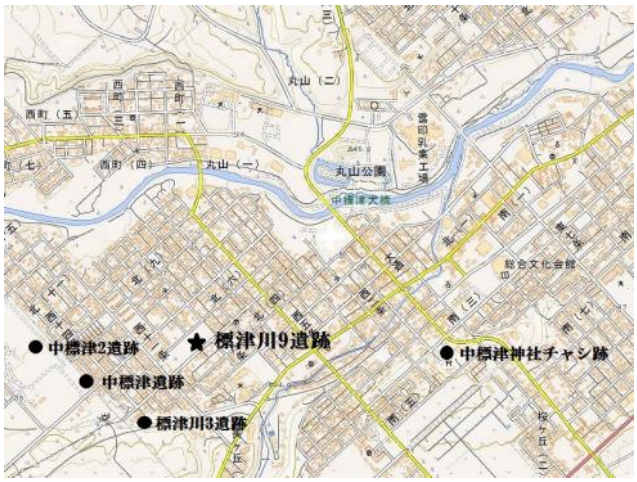
## 調査の概要

標津川９遺跡は中標津市街地北西部に所在し、標津川によって形成された標高35ｍの河岸段丘の右岸に立地しています。

本遺跡は、旧所有者から当町が埋蔵文化財の保存と活用を考慮して平成28年12月22日に購入したところであり、将来の土地利用に資するため昨年度から複数年かけて遺跡の範囲及び性格の確認を目的として調査を行っており、来年度も実施予定です。

試掘調査の結果、21地点のテストピットの内、３地点から12点（土器片５点、黒曜石製石器類７点）の遺物と、１地点において遺構が確認されました。

遺跡の時期は、昭和40年代に町民が縄文土器、後北式、擦文土器を表採しており、今回の調査においても、続縄文土器の前半期（興津式、下田ノ沢式）、後半期（後北式）の土器を発見していることから、縄文時代中期後葉から続縄文時代を経て、擦文時代後半期にかけて利用されていたと考えられます。



標津川９遺跡位置図

調査状況

この遺跡についてのお問合せや、中標津町の遺跡をもっと知りたい方は・・・

中標津町教育委員会 生涯学習課学芸係まで　　電話：0153-73-3111

一覧へ戻る

しべつちょう　ぽーがわかがんさんいせき

# 標津町　ポー川河岸3遺跡　(N-04-184)

発掘主体：　標津町教育委員会
調査理由：　詳細分布
調　査　地：　標津郡標津町字伊茶仁１番地21･22
調査期間：　平成30年８月１日から10月11日まで
調査面積：　８㎡

## 調査の概要

ポー川河岸３遺跡は標津市街地から北に４㎞ほど離れた、ポー川左岸の自然堤防上に位置し、地表面から窪みで観察できる竪穴６か所が確認されています。ポー川、伊茶仁川流域に窪みで残る大規模竪穴住居跡群、標津遺跡群の構成遺跡の１つです。標津遺跡群の内容解明と、将来の保存に向けた基礎情報を得るため、地元標津高校と共同による詳細分布調査を行いました。

平成30年の調査では、前年度に調査した竪穴の隣に隣接する、浅い長方形の竪穴窪み１か所に対し、幅50センチのトレンチを１ヶ所設定し、発掘調査を行いました。調査の結果、窪みの中央付近で炉跡が検出されました。

出土遺物は、炉跡上面から擦文土器の坏の破片が、また周辺では棒状礫がみつかりました。その他、覆土からは続縄文時代の土器細片もみつかっています。

今後隣接する竪穴でもトレンチ調査を実施し、遺跡の詳細を確認した上で、報告書を刊行する予定です。

ポー川河岸３遺跡調査状況

この遺跡についてのお問合せは･･･

標津町ポー川史跡自然公園まで
電　話：0153-82-3674　　E-mail：po-gawa@shibetsutown.jp

一覧へ戻る

べつかいちょう　しせき　きゅうおくゆきうすえきていしょ

# 別海町　史跡　旧奥行臼駅逓所（未登載）

発掘主体：　別海町教育委員会
調査理由：　史跡整備（遺構確認）
調査地：　野付郡別海町奥行15-12
調査期間：　平成30年８月20日から８月31日まで
調査面積：　44㎡

## 調査の概要

史跡旧奥行臼駅逓所は、明治43年に別海町奥行臼に設置され、昭和５年に廃止されるまで根室と別海の海岸部・内陸部を結ぶ交通の要衝として重要な役割を果たしました。

史跡の重要な構成要素である駅逓所主屋は、明治36年～43年創建時の中央棟、大正９年増築の北棟、昭和16年増改築の南棟の３棟より構成されています。

発掘調査は、平成29年度から駅逓所主屋の修理工事実施に伴い行われ、平成30年度は、主屋外構工事（雨落）による掘削部分の調査を行いました。

検出された遺構は、柱穴５基、集石５ヶ所です。いずれも大正９年増築の北棟の周囲から検出されていることから、柱穴は、建物建設時の足場の柱の穴の跡など、集石は、礎石地業に使用された根石と思われます。遺物は、木製品、陶磁器類、金属製品、動物遺体が76点出土しました。

報告書の刊行は、平成30年度末となります。

調査の様子

柱穴検出状況

## この遺跡についてのお問合せは･･･

別海町教育委員会　生涯学習課文化財担当まで
電話：0153-75-2111　　ホームページ：http://betsukai.jp/blog/0002-1/index.php?ID=18"

平成31年3月　発行

市町村における発掘調査の概要　平成30年度（2018年度）

編集・発行

北海道教育庁　生涯学習推進局　文化財・博物館課

〒060-8544　北海道札幌市中央区北3条西7丁目

TEL　011-231-4111　内線35-606